



こんにちは

日本共産党 坂本みえこ です

11月号

日本共産党
世田谷区議会議員

坂本みえこ事務所 ● 世田谷区太子堂4-5-2 TEL 03-3419-7721 FAX 03-3419-7673

災害時

73%の区民は在宅避難

災害時、ケガがなく、住居に

も危険な損傷がなければ、多少不便であっても、自宅で避難生活を送ることが求められています。しかし在宅避難について、多くの区民の皆さんがピンと来ていないのが実情ではないでしょうか。避難所にすべての区民を受け入れることは到底無理です。世田谷区では66万8千人、約73%の区民が在宅で避難生活を送ることが想定されています。

「在宅避難」について、自分の問題だ

事前の備え

「在宅避難」をするにあたり、事前の備えは非常に重要です。では、どのような備えが必要なのでしょう。

●建物と室内の安全確保

必要に応じて耐震補強を施したり、家具の転倒防止装置を正しく設置する。

●食料、水の確保

10日間程度の食料品や水を備えておく。

●健康管理

持病や障害のある場合は、災害時の対策を主治医に相談し、考えておく。

●非常用トイレの準備

自宅のトイレを利用した非常用トイレの作り方を、汚物の処理方法を含めて事前にマスターしておく。

●衛生物品の確保

感染予防対策物品として、マスク、消毒用アルコール、石鹼、体温計などを準備しておく。

●情報収集

ご近所との情報交換をしたり、世田谷区災害・防犯情報メール配信サービスに登録する。



と置いていなかった、ということがないよう準備をしておきましょう。

避難生活に必要な物資は、本人・家庭による備蓄が前提ですが、備蓄が不足した場合には、指定避難所（学校等）で支援物資等が配布されます。避難所まで物資を

取りに行くことが困難な方については、日赤奉仕団、一般ボランティア、民間団体の協力で、物資を提供することとなっています。しかし、こうした支援者の確保にあたっては関係団体等との連携だけで担うことは難しく、要配慮者本人の日々の生活の中での繋がりをもとに支援者の拡充を図ることが重要で、区では現在、避難行動要支援者の個別避難計画の作成を進めています。

一人暮らしをしている実家の母親のところにも個別避難計画の書類が届きました。幸い、娘である私が近所に住んでいるので手助けできますが、地域コミュニティにおける新たな担い手の確保も含めた支援体制が必要です。

また、議会質問では、必要な情報を迅速かつ確実に届けることができる環境整備の取り組みを求めました。



野川であぶくのようなものが流れている？

外環道のトンネルの上、世田谷にも近い調布の野川沿いのサイクリングロードで「地面に穴があいた」とか、入間川で「謎の気泡が出た」等のニュースがこのところ続いており、世田谷でも用賀付近でジャンクションの工事も進んでいるので、現場を見た方がいいと思い、喜多見駅近くの野川へ。

行ってみるとあぶくのようなものが浮いて白くなっています。

もしか、外環道のトンネル工事の関連で出

庭からの雑排水」と話がありました。下水道に流れるべきものが野川に入り込んだものがあつたようです。水質検査はしていませんが、この下のトンネルは気泡シールド工法で掘削してないので、気泡は出ない、とのことでした。

そうなると環境の問題。問題解決のため担当部署とも連携していきます。

ているのでは？と区役所の担当と連絡を取りました。

後日外環道担当より、この事象は「家



写真上・白く濁っている水面
写真左・雪のように白い泡状のものが点々と流れています

世田谷美術館に行きました

「障害者施設アート展」のチラシをもらい、チラシに載っていたプリンの絵がどうしても気になって、世田谷美術館に見に行きました。（写真）
どうです？ おいしそうでしょう。

障害者の方の描かれる絵は、心が洗われてきれいになるというか、なんとも素敵な気持ちになることが多いです。

大学生の時に、宮城まり子さんの「ねむの木学園」の子どもたちの絵画展を見に行く機会があり、大変感動したのが始まりです。

区役所のロビーでも、障害のある子どもたちの作品が毎年展示されていて、その作品を見るのが好きです。

そんな経験もあって、今回の機会も逃さずに行ってきたのですが、「プリン」はもちろん、他の作品もすてきでした。心の洗濯ができてよかったです。

